

会 議 録

会議の名称	第3回小金井市産業振興プラン策定委員会
事務局	市民部経済課産業振興係
開催日時	平成27年9月28日(月) 午後3時～午後5時
開催場所	小金井市商工会館2階 大会議室
出席者 (11名)	委員長 福田 委員 副委員長 正木 委員 阿久津 委員 日野 委員 益田 委員 今井 委員 石黒 委員 鴨下 敏明 委員 鴨下 洋 委員 高杉 委員 長島 委員
欠席者	藤本委員
傍聴の可否	○可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	なし
会議次第	1. 委員長挨拶 2. 資料確認 3. 議事 (1) 産業振興の将来像について (2) 基本方針、推進目標について 4. そのほか
会議結果	決定事項なし。

<p>発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)</p>	<p>発言内容</p> <p>議事 1. 産業振興の将来像について</p> <p>◎福田委員長 事前に長島委員に準備いただいた資料についてご説明をいただきたい。</p> <p>◎長島委員 まず、小金井市の付加価値額は、周辺市と比較して少ない。これは、大企業の本社が存在しないことが要因だが、企業誘致は、難しく、また企業誘致を図るべきとお考えになる委員も少ないのでは。また、関連して地方税の歳入内訳では、法人の住民税が低く、市の財政を住民が支えている割合が高いといえる。これらのデータから、企業を応援することも重要だが、個人の方々が豊かに暮らすために役立つ企業を応援していくほうがなじみやすいのでは。一方、付加価値額の構成比では、小金井市は教育産業の割合が他の市よりも高い。これは、大学が多く立地することが主な要因であると考えられる。大学があるという価値は、大学のない市にしたら、のどから手が出るほど欲しいものであり、大切にしないといけない。次に、住民所得をみると、小金井市は武蔵野市、区内に続いて高い。最後に、小金井市民の勤め先を整理しているが、現在は30%を超える人が区内に勤めていることが分かる。市を出て区内に勤めに行って寝に帰ってくる人を、小金井が大好きな人にして、市内で仕事してもらい、なおかつお金も使ってもらおう仕組みをつくるとよいのでは。</p> <p>◎鴨下(洋)委員 小金井で創業しても、都心に出て行く人がいる。そういう方を引き止めることはできないか。</p> <p>◎長島委員 引き留めようとしても企業は出て行ってしまふ。あきらめるしかない。ただ、世界を相手にしている企業は出ていくが、小金井が大好きで、ここでやっている人たちは出ていかない。そういう人たちを中心に応援していくほうがいい。地元の課題解決をしてくれるような福祉、子育て支援、教育、農業のことを応援してくれるような人たちとコミュニケーションをしていったほうが住宅地としては最高にいい場所になっていくと思われる。</p> <p>◎日野委員 小金井市で産業、工業を盛り上げるのは難しい。視点を、文化やはけなどの自然といったものに変えるべきでは。農業も現在は、子どもがみずから農業体験する、学芸大にも田んぼの時間があるなどお母さんたちにも好評ある。小金井市がのどかなまちとして定着し、魅力となれば、もっと大きな企画なりが生まれるのでは。</p>
---	---

◎**益田委員** 住んでいる人向けに何かしていくべきだと考える。小金井らしい産業振興というのは住んでいる人向けの提案を入れていくことでは。

◎**高杉委員** 人が生きる中で産業ができると思っているので、人にやさしいまち、人がやさしくなれるまちを目指す中での産業という位置付けがいいのでは。

◎**事務局** 工業を専攻されている学識経験者として、多摩大学の奥山先生にヒアリングを行ったので、ご報告する。

まず、小金井市における工業振興の考え方としては、小金井は工場をつくれるような土地がないので工業としてやっていくのは難しい。そのため、既存工業に対する施策や、小金井市で製品の生産までするのではなく、企画、デザインなど大規模な施設を必要としない都市型産業を育てていくべきではないか。

市内には農工大・多摩小金井ベンチャーポート、KO-TO、インキュベーション施設がある。これらの施設では、人を育てる部分を担っているが、あわせて受け皿をつくらなければいけない。例えば、再開発の進んでいる武蔵小金井駅前や東小金井駅前にオフィスが集積すれば、都市型産業の集積が図られるのではないか。その場合、行政はオフィスをつくれれば容積率を緩和するといった都市計画面での施策が考えられる。

現に、ベンチャーポートを卒業した方々の受け入れ先が課題となっている。あそこはバイオ系の研究が多く、工場やある程度危険なものを扱う研究所をつくらなければいけないのだが、これは小金井市内の用途地域という都市計画ではつくれるところが限られている。そのため、先ほどの都市型産業として、企画、本社機能を市内に置いて、生産機能は地方に置くという形とすべきでは、というお話だった。連携する都市は、必ずしも近接する周辺都市というだけでなく、研究都市のつくばや中央線でつながっている山梨方面も考えられる。

最後に、工業に限らないが、世間には退職したばかりの方、やる気も能力もある企業OBがたくさんいる。そういった方々の組織化事例として、八王子のサイバーシルクロード、TAMA産業活性化協会といったものがあるということだった。それらの事例では、団塊

の世代に限らず女性、若者を含めて多摩地域で起業支援が行われている。

◎**福田委員長** 社会的な課題、コミュニティも含めて、そういったところにお金は当然必要になってくるが、その原資は税収がもとなるので、産業が振興され伸びないと、やりたい施策にお金が回らないということになる。生活と産業を複眼的に見ていく必要性はある。ただ、他の市とは産業基盤そのものが違うので、小金井らしさを追求、探求していくことが必要である。

そのうえでのキーワードとして、文化、農業、自然、地域資源、水とか小金井桜、良好なコミュニティなど生活に密着した小金井の強さ、魅力、ブランドになるようなものを資源として産業化していくことが小金井の産業振興プランの中で大事になってくるのでは。将来像についても、この委員会の中ではそういった形で産業振興を考えることを共通認識とし、それをベースに議論していくことが必要である。

◎**正木副委員長** これから生活していく上で、学ぶということは生きる上での喜びといった、すごく大きいファクターになってくる。これからは生活スタイルのモデル化を図る上で、産業が先立つのではなく、おいしいものが食べられて、豊かな住居空間があって、知性みたいなものを刺激し合えるような環境づくりという点がブランディングの核になるのでは。小金井市で新しいライフスタイルを学んできたいと、いろいろな人たちが集まって、一緒になって学び合えるような拠点づくりに向けて、産業振興をどう図っていったらいいかと考えたほうがリアリティのある話になるのでは。

◎**福田委員長** 工業振興においては、付加価値の高い企画、本社機能を誘致し、生産機能は他都市と連携すべき、ということであった。小金井市の場合、工場をつくるのは用地的、都市計画的に難しいというところもあるし、それを必ずしも望んでいないかもしれない。むしろ、望まれているのは小金井らしさである市民力というもの、多様で豊かな市民の方々による小金井ビジネスが望ましく、この創造を目指している点は5年前と同じであり、将来像そのものについては、変えずにいくというのはいかがかとの提案である。大きな異論がなければ、今日の時点においては、これを将来像として継続するという形で了解いただいたということにさせていただき、今後、具体的な施策の話をする際に改めて振り返って検討が必要であれば行いたい。

議事 2. 基本方針、推進目標について

◎**福田委員長** 基本方針は、市民力の強化、地域資源の活用による回遊性の創出、情報の体系化、受発信の強化、現行の 3 つの基本方針を生かす形で、それぞれ推進目標を 3 つで整理できるのではないかとということである。

現行のプランは、商業、工業、コミュニティ・ビジネス、まちなか観光産業と、業種別で分けられている。そういう分け方ではなく、整理の仕方を新目標にある 3 つに集約し、これを文字どおり推進目標にしたいということが今の提案の趣旨である。

◎**鴨下(敏)委員** 推進目標に記載されている産業がどのような産業を示しているのかがピンと来ない。その部分が明らかになれば施策のイメージも湧いてくる。

◎**正木副委員長** 基本方針に示されているものは大事な 3 本柱だと思うが、例えば市民力といったときに、市民である私はどのような力を蓄えるべきなのか。そして、蓄えたものを何に使うのかという部分のもう少し具体的なロードマップをつくっていかないといけない。

情報の話では、関わっている再開発の中でもメディアづくりは課題として挙がってきている。例えば、J-COM のような地域メディアを市民の力で盛り上げ、ニッチな情報など、地域の人にとってはありがたい情報をみんなが共有できる拠点をつくっていくというアイデアもある。そのために学びが必要なのだと私は考えている。

◎**福田委員長** 商店街を歩いていると休憩できるスペースが少ない印象がある。そうしたスペースが店舗と連動していると消費もするのではないかと。例えば空き店舗を休憩できるスペースにすることもよいのではないかと。子どもの見守りという観点からも有功ではないかと。

◎**正木副委員長** 具体的な推進事業は、次回以降に見えてくるということであるが、そこが見えづらいと、推進目標はこれでいいのかという議論が進みにくいということかと思う。これまでの商業、工業、コミュニティ・ビジネス、まちなか観光、という分類は非常に分かりやすいが、小金井市の場合は、工業うんぬんはコミュニティ・ビジネスのように生活支援産業である。専門サービス業を支えるということもあるかもしれないが、それだと小金井らしさに結びついていかない。小金井らしさを考えていく上においては推進目標

を今、既存の軸とは違う形のもので展開をしたいという意図について、適切であるか、意見を頂戴したい。

◎**日野委員** みんなが思っていることがばらばらな状態なのは。産業はいろいろあり、どうやってサポートしていくかも、今の文言だけでは、思いつかない。

◎**正木副委員長** 将来像の「多様で豊かな市民力による黄金井ビジネスの創造を目指して」、がゴールである。そのゴールを分解して、例えば「多様で豊かな」というのは、具体的にはどういうものを指しているのか。そこで生まれてくる市民力は、何に生かされるか、何に原動力を持った力なのかということがないと、意味が分からない。また、黄金井ビジネスといったときに、これは商業なのか、工業なのか、観光業なのかというふうに、次の階層ができてくる。将来像をみんながどう分解して具体的な肉づけをするかというロードマップがないとイメージがばらばらになる。

前回までは、目的がないわけではないが、目的を逸脱しながら事業が乱立した状況が生まれたということである。それは1つ経験として持たなければいけないが、そこから次に、今度は目標ありきかという話になると、その目標自体もまだ具体化していないので、具体的な事業で照らし合わせて、この目標が本当に実現すべき内容かという議論にしていかなければいけない。

黄金井ビジネスといったときに、皆さんはどのようなビジネスをやりたいのか、またはやるべきなのか、それを実現するためにはどういう力が必要か、どういう環境を整えなければいけないのか、既にその環境はあるから、これを活用すればいいではないかという話になってくる。推進目標にもう1センテンス加えるとよいのでは。

◎**福田委員長** 推進目標として、ここに提案されている文言は並列的に並んでいない。例えば微修正をすれば、1番目は産業を学んだり、サポートすることができる環境づくりを目指す。2番目は、地域資源の活用と時間消費型サービスの普及による付加価値の高い産業づくりという形にすると文言は合ってくる。3番目は、前半の言葉をカットして、中間支援の立ち上げによる支援事業の展開という形にすると、文言的なところでの並列感が出てくる。

今まで商業、工業、観光という産業別に出ていた目標、施策があった。それは非常に分かりやすいが、工業の話は見えづらい。むしろ生活支援、小金井のブランド、文化、そういったある資源を活用

	<p>していく視点で産業化を考えたほうが、小金井らしくなるであろうということで、あえて商業、工業という切り口ではない形のを今、模索しているのである。</p> <p>◎今井委員 新しい人を育てて市内で起業してもらおう、よそから企業を呼びこもうという話はいつも出ているが、今、市内で商売をやっている人間が、もう 1 つ会社を始めるということについての支援が全くない。今、商業をやっている人が工業でいけそうなものがあればやればいいし、工業の人が商業でいけるものがあればいけばいいのでは。</p> <p>◎福田委員長 例えば、新しいビジネスは地域の資源を活用するため、あるいは時間消費型のサービスを普及するためであれば、施策が推進目標と合致してくる。きちんと小金井市のビジョンの中では推進目標として、こういうものを掲げている、そのための施策である、そういう形でそこが繋がれば、これまでと違うくくり方で整理する意味は出てくる。時間的などところで、推進目標は文言も含めて推進事業とセットで考えていきたいということなので、今日はこの推進目標はペンディングにしたい。4 回目については、3 回目の後半の話と合わせてセットで提案いただきたい。</p> <p>そのときに、できれば推進事業として、本日いろいろな議論のあった、小金井らしさといったことを踏まえた上で、市民力、ビジネスの創業につながるような、あるいはそれを浸透していくのに、小金井として適切であると思われるものの推進事業として提案があれば、前回と同じように、メール等で意見を伺えるようお願いしたい。</p>
提出資料	<p>資料 1 第 3 回策定委員会の論点</p> <p>資料 2 小金井市における「産業振興の将来像、基本方針、推進目標」の検討</p> <p>資料 3 小金井市における工業の可能性(専門家ヒアリング結果)</p> <p>資料 4 ■参考資料(「昨年度実施された「小金井市中間支援組織設立検討委員会における SWOT 分析資料」)</p> <p>資料 5 委員からの意見(要約)</p>
その他	<p>第 4 回策定委員会は 11 月 2 日 (月) 15 時から前原暫定集会施設 A 会議室で開催する。</p>